

「君の椅子」に込められた思い



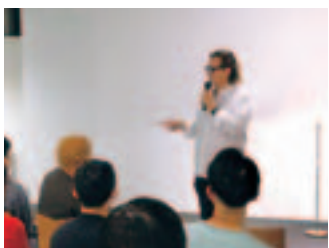
8月18日、50回目のデザインスクールを開催しました。今回は君の椅子プロジェクト代表・磯田憲一氏が「時間が生み出す価値」「君の椅子」を届けて14年」と題して講演。

デザインスクール(10月は6日(日)と28日(月)に開催します)

「君の椅子」は、生まれた子どもの誕生を地域でお祝いする取り組み。新たな命を慈しむと共に、旭川家具職人の技への敬意も込められています。椅子を贈られた子どもと家族によってお金に換えることのできない「思い出の記憶装置」として育まれる小さな椅子は、「居場所」として、自分を肯定してくれ、愛されていることをいつでも思い出させてくれ、「古いけれど新しい」時間によってのみ創ることのできる大切な存在として、これからも新しく価値を創り続けるとお話しいただきました。

来場者からは「一脚ごとにある大切なドラマに感動。改めて一脚に対する気持ちを大切にしている」と思った。「子どもと関わる仕事をしているので、子どもの居場所の一つとして育ちに寄り添っていかうと改めて思った」といった感想が寄せられ、デザインスクールのメインテーマである「丁寧に暮らすこと、丁寧に生きること」を根本から教わる講演となりました。

幸せな時間+人との関わり+ヒューグ



9月7日の第51回デザインスクールは、旭川デザインセンター(永山2条)との共催でスカンジナビアンリビングの羽柴健氏に「日本のヒューグな暮らし」として講演いただきました。近年注目の「ヒューグ」は、インターネットや暮らしの中での喜びや心地よさ」と理解されがちですが、氏によればヒューグは「何かをすること」ではなく、「一心の中にあるもの」。デンマークでは「食や医療」や「仕事や住居」を国が保証することで、「個人の幸福度」が高い国に成長したと解説。時間の大切さを重んじ、人と理解し合うことに喜びがあり、社会に参加していることそのものがヒューグであると説明しました。参加者の「デンマークにはいいものは無いの?」という質問には「いいものも不登校もあるが、1957年からシステム化し、いじめに気づいた生徒は報告することを義務化した。先生は、いじめられている側はもういじめられている側に起きることに向き合ひ、いじめ自体を明るみに出してみんなで向き合ひ、解決するプロセスを大切にすることで、大幅に減少した」と回答。今までのヒューグのイメージとは別角度から掘り下げた講演となりました。

「細く長く、続ける」情熱



9月8日、52回目のデザインスクールを開催しました。講師は(株)山一代表・柴原孝氏。(株)山一は、長野県・信州南木曾で寺院仏閣の修復に使われる樹齢2〜3百年の松(ひのき)から約50%も出る端材を活用し、伝統的な日用品を作る会社。箍(たが)が無かったり楕円形でスマートな飯台、側面と底面の境目が曲面になっており杓文字で米をすくいやすいお櫃など、創意工夫を凝らした「木でなければできない仕事をするモノ、木であることで豊かで安らぎを感じるモノ」を、職人と一緒に作り続けることを使命としています。

織田憲嗣氏(東川町文化芸術コーディネーター)が雑誌で(株)山一の桶を紹介した際の「美しい道具は使う人の品格を高め、暮らしを豊かにする」ということばに感銘を受けたという柴原氏。伝統的なモノづくりを「細く長く、続ける」には、減少し続ける職人の生活を守り、後継者を育てるために販売利益をしっかりと還元することが大切であると力説。雑誌などを通して職人の思いをユーザーに伝える仕事についてもお話しいただきました。参加者にも柴原氏や職人の飽くなき「情熱」が深く伝わったようです。

忠別湖の紅葉と 自然系SEA TO SUMMIT

8月24日から25日にかけて、東川町では9回目の開催となる大雪・旭岳SEA TO SUMMIT(シートゥーサミット)が行われました。「主催・観光協会、町、モンベルで構成する同実行委員会」

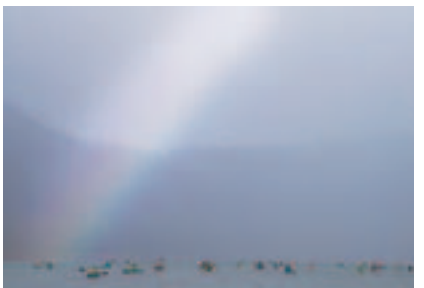


▲1回目から東川大会に参加している村上さんご一家(埼玉県)。5才と1才のお子さんはゴールまで初登頂!

24日の環境シンポジウムではロバート・トムソン氏(北星学園大学専任講師、Hokkaido Wilds運営)がスケートボードでヨーロッパ〜アメリカ〜中国を横断(ギネス世界記録)した経験から「アドベンチャー(冒険)とは何か」について講演。旅の中で掴んだ、自分で変えられない状況は受け入れて前に進む」というモットーを語り、「タイムレースではなく、環境を考えながら大自然を満喫する本イベントも冒険の一種」と参加者を鼓舞しました。



▲バイクは忠別湖〜旧旭岳ピジターセンターまで15kmの山道を疾走。



▲忠別湖にかかった虹の中、カヤックやカヌーを約5km漕ぎました。

25日の大会当日は午後の曇り時々雨でしたが、忠別湖でのカヤック中には

の開催となります。加をお待ちしています!

自分でつくるパンパンク

9月6日、せんとびゅあⅡ体験室にて、パラパラブックワークショップを開催しました。講師は「もうひとつの研究所」の杉野公亮研究員。



下絵が書かれた『でてきた!』『なにがくれたの?』の2冊(それぞれ20ページ)に、消せるボールペンで思いの絵を描いていきました。書きあがったら製本し、お互いのブックを交換してパラパラ。文字が出てきたり、

興味を湧いた方はぜひお申込を。次回は10月11日(金)に開催します。ご

台風一過、快晴の羽衣音楽祭

8月18日、羽衣公園ステージにて24回目となる羽衣音楽祭2019が開催されました。「主催・東川イベントサポートクラブ」



今年12のバンド(うち初出場4バンド)が集結し、約7時間ライブを繰り広げました。町内パンドはトップバッターを務めた「飛呼露天(ところてん)」、町地域おこ

協力隊の「ドートレトミシ」、「キトウシ森林公園(道路の青看板にピンときて命名)」が出演。当日は台風の影響が懸念されていましたが、皆の思いが通じたのかまさかの快晴。それぞれのバンドが想いを載せた演奏を、熱中症に気を付けながら楽しむ熱